

八ヶ岳と富士山の背くらべ 山梨県

昔むかし、大むかし。まだ人間がいなかつたころ。大地はまつ平らで、動物たちは、大平原で、みな楽しく暮らしていました。

ところが、ある夜のこと、世界じゅうのあちこちに、音もなく、しわがよりはじめました。しわは、どんどん深く高くなり、あれよあれよといつつちに、こんどは、足の下から煙がふきだしてきて、火とじろをふきあげました。そのじろが積もって、大入道のような山が、あちこちに生まれました。

日本で特別大きな山は、八ヶ岳と富士山でした。八ヶ岳と富士山は、頭から湯気を立てて、背の高さを競い始めました。どちらもぐんぐん伸びていきましたが、先に生まれた八ヶ岳のほうが高くて、富士山はどうしても追いつけません。得意になつた八ヶ岳は、伸びに伸びて、とうとう天に頭が届いてしまいました。そこで、八ヶ岳は、天をつきやぶつてやろうと考えました。ところが、ぐいと伸びたひょうしに、頭から三分の一ほどの所で、ぱつきり折れてしまいました。アツと思いましたが、どうしようもありません。それでも伸びようと、八ヶ岳はがんばりました。すると、折れた所から、頭がいくつも出ました。けれども、背は大きくなりませんでした。こうして、背くらべは、富士山が勝ちました。八ヶ岳は、くやしがつて、毎日泣いていました。十六もの目から涙を滝のようく流して泣きました。その涙がたまつて、せきを切つたように流れたあとが、今でも山の南の方に残っています。

さて、このようすを見ていた鞍馬山の大天狗が、氣の毒がつてやつて来ました。そして、子天狗に、赤岳のてつ。やつに社を建てさせ、折れた頭は南東の山腹に置いてまつらせました。赤岳の南に大きな岩がふたつありますが、これは、大天狗と子天狗が岩になつたのだといわれています。

おしまい

富士山と八ヶ岳の背比べには、こんな言い伝えもあります。

むかし、まだ八ヶ岳のほうが富士山より高かつたころのおはなしです。

富士の女神さまと八ヶ岳の男神さまが高さくらべを始めました。

「わたしのほうが高い」

「いや、わたしのほうが高い」といふて、ゆずりません。そこで、

「それじゃあ、しかたがない。阿弥陀さまに決めでもらおう」ということになりました。阿弥陀さまは、

「それは、こまつた」とだなあ。そうだ、水は正直だから、水で決めよう」とおっしゃいました。

「おまえたちの頭から頭へ樋^{とい}をかけ渡して、水を流し^こもう。水は低いほうへ流れるからな」

阿弥陀さまは、八ヶ岳のてっ�んから、富士山のてっ�んに、樋をかけ渡しました。そして、水を流し^こむと、水は、富士山のてっ�んに向かつて流れました。

「富士の女神よ、おまえのほうが低い。もう争いはするな」と、阿弥陀さまはおっしゃいました。ところが、富士の女神さまは、くやしがって、太い棒^{ぼう}で八ヶ岳の頭をたたきました。すると、頭は八つに割れて、八つの峰^{みね}ができたということです。

おしまい

村上郁再話

資料『口碑伝説集』北巨摩郡教育